

いずみニュースレター

2020 年(令和2年)1月発行 第 15号

新たな時代の変化に応じた組織力

社会福祉法人鶴風会 西多摩療育支援センター事務長
社会福祉法人いずみ評議員 石井昌之

皆様、新年明けましておめでとうございます。

私は平成 29 年度から評議員をしております。本務は「福）鶴風会東京小児療育病院」から、現在は同法人あきる野市にある「西多摩療育支援センター」へ異動し、障害児者の医療・療育を提供する施設の事務に勤務しています。また、今回のご縁で、居住地がある東村山市内の法人「いずみ」に微力ながらも協力出来る機会を頂けたこと、大変光栄に存じます。これからもよろしくお願いします。

さて、新元号「令和」になって、初めての新年を迎えて新たな気持ちです。ただ、昨年を振り返ると、台風や大雨、短時間集中豪雨など想像を超えた異常気象に見舞われ、現在も各被災地では復旧に至っていない場所もあります。被災地の皆様に心よりお見舞いを申し上げるとともに、一日も早い復興を祈っております。すでに毎年各地で大きな自然災害が発生し、河川の氾濫や建物浸水、土砂災害、大規模な停電などは、もはや異常気象では無く、私たちの身近な場所でも想定する気象条件に変化してきたことを強く認識する必要があります。

もしも、「いずみ」での自然災害を想定すると、多岐の事業運営に影響が出てきます。まず、利用者や職員の安全確認、他にも施設や設備・備品の損傷確認、車両や送迎ルート of 状況確認など、様々な対応に施設職員が追われます。これまで以上に、災害想定をした実践的な訓練や準備、対応手順を明確にして、利用者の安全確保や施設等の保全に努めて頂くことをお願いします。

一方、昨年の明るい話題は、スポーツが大いに盛り上がった年でもありました。女子ゴルフで 42 年ぶりに海外メジャー制覇、野球はプレミア 12 で 10 年ぶりに世界一。そして、ラグビーのワールドカップが日本で初開催され、結果はベスト 8 で優勝国の南アフリカに敗れましたが、開催中は日本中がラグビー一色となり多くの方が応援して、歓喜と感動に包まれた貴重な時間でした。また、大会中には、選手達が長期合宿で同じ目標を見据えて努力してきた姿や、勝利した際に「カントリロード」を替え歌した「ビクトリーロード」を歌い分ち合う姿をテレビで何度も見ました。さらに印象的だったのは、試合前の控室に戻る際、肩に手を当てて連ねて行進する選手達の姿は、チームワーク(結束力)を象徴したシーンで、ルールも知らない、にわかファンの私も毎回心を震わせました。

そのラグビーから「ONE TEAM」と結束力を象徴する言葉が流行語に選ばれました。新たな時代では、福祉制度も自然環境も、さらなる変化が予測される中、法人運営や利用者の

安全を見据えた、職員が一体となる組織力も求められます。

皆さんが「ONE TEAM」となって発揮できる組織づくりを支援していきます。

当法人では、BCP(Business Continuity Plan:事業継続計画：企業が自然災害、大火災、テロ攻撃などの緊急事態に遭遇した場合において、事業資産の損害を最小限にとどめつつ、中核となる事業の継続あるいは早期復旧を可能とするために、平常時に行うべき活動や緊急時における事業継続のための方法、手段などを取り決めておく計画)を現在検討中です。作成次第、発表予定です。(編集部)



つばさ祭り



ライフサポートつばさ(生活介護事業)

令和最初のつばさ祭りが、2019年9月22日(日)に開催されました。

雨に好かれることで有名なつばさ祭りですが、今年は数日前から本降りの予報…。ギリギリまで悩まされましたが、利用者さんの作った‘巨大てるてるぼうずくん’のおかげで当日は終日お天気も持ち、無事に執り行うことができました。



ポスターや掲示物、ゲームコーナーの準備など、利用者さんと一緒に作り上げてきたつばさ祭り。

昨年初披露した『つばさ音頭』に、今年は踊りが付き、バージョンアップ！！

催し物は、東村山西高校箏曲部の演奏と女子ダンス部の舞台に加え、地元で活動されている『エイサー海人』さんの迫力のある演舞や、同じく和太鼓『仁の会』さんの心に響く演奏、恒例のビンゴ大会も盛り上がりました！つばさで普段行っている革細工作業の体験コーナーを、東村山一中の生徒さんにも手伝ってもらい実施。ご近所の方がたくさん参加してくださいました！

(担当:清水)



ビンゴ大会にて

第5回あゆみの家改修工事記念シリーズ講演会のご報告

(2019年9月28日(土)13:30～15:30 あゆみの家1階)

テーマ:虐待を産む構造を考える～私の経験から～

講師:藤間英之氏(秋川流域生活支援ネットワーク理事長)

参加者:60名

今回の講師、藤間英之先生は、障害者が地域で生活していくためにNPOを立ち上げ、支援をしてこられました。先生は虐待ということについて様々な対応をしてこられた経験を通して、虐待防止のためのチェックリストやマニュアルも必要ではありますが、それよりも根底にあるもの、障害者支援をする中で必要な基本的な考え方についてお話してくださいました。

社会からの保護や隔離といった施設入所中心の時代を経、介助が必要でも自分が決定し選択した生き方を貫いているのなら「自立」とみなすという新しい「自立観」が確立され、日本でも障害福祉サービスが施設入所中心から地域生活中心へと転換されてきました。

利用者が生きてきた環境、体験、その方自身の特性等を十分に理解せず、真のニーズに基づいた支援がなされていないために起きてしまった虐待のケースを例に挙げ、虐待の芽を摘むには支援者は何をすべきか、考えさせられました。虐待はどこにでも起きる可能性があります。障害者は何も言わなくても、もしかしたら対応に苦痛を感じているかもしれない、心の痛みを隠しているかもしれない、必死に何かを訴えているのに周囲がくみ取れていないのかもしれない、想像力を最大限に生かして理解しようとしなければ言葉のない障害者に共感することはできません。それを繰り返して信頼関係を築いていくことが必要なのです。

藤間先生が言われていた「私たち支援者が利用者にとっての社会的障壁であるかもしれない」という言葉、自分が障壁となってしまうてはいないかと振り返る必要があると感じます。障害者が地域で十分な支援を受けて生活していくためには、私たちが利用者を取り巻く環境の中で大きな影響を与えている一員であることを忘れずに、利用者に寄り添い、思いを汲み取りながら支援をすることが必要だと感じさせられた講演会でした。

(ひまわり 野坂)



秋の行事

あゆみの家幼児部(児童発達支援事業)

10月24日(木)、近隣の方の協力を得て、芋掘りを行いました。一生懸命掘って掘って・・・土の中からお芋が出てくると「うわぁ！」大きなお芋や、「かわいい～」小さなお芋がたくさんとれました。

10月31日(木)は、ハロウィンイベントを行いました。ひまわりと待ち合わせている中央公園へ行き、自分達で飾りをつけたマントやスカートで仮装。思い思いの仮装をしたひまわりの皆と合流し、それぞれ手作りのカード交換、全員での記念撮影をしました。公園を後にして、つばさへ行くと、今度はユニークな仮装の方々登場。「トリック・オア・トリート」「おかし、ちょうだい」と合言葉を言い、お菓子を貰いました。ひまわり、つばさとも交流しながら、秋ならではのイベントを楽しみました。

(担当:小野)



秋の遠足 多摩六都科学館



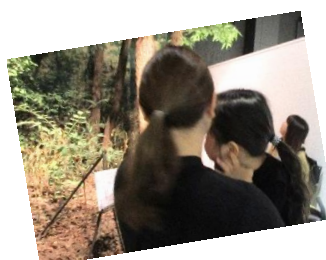
ひまわり(児童発達支援事業)

11月21日(木)、ひまわりでは秋の遠足がありました。当日は晴天に恵まれ、6組の親子で西東京市にある多摩六都科学館へ行きました♪

午前中は館内見学をしました。月での重力体験や、音の実験室、触覚体験、身近な生き物展示など、親子で体験、展示見学を楽しむことができました。

お昼休憩の後は、メインイベントであるプラネタリウム観覧でした♪広い天井に映し出されるきれいな星空をゆったりとした音楽と説明を聴きながら楽しみました。プラネタリウム観覧が初めてのお友達も多く、とても良い体験になりました！！

(担当:西島)



親子交流会

ひまわり(放課後等デイサービス)

10月22日、ひまわり放課後等デイサービス親子交流会を実施しました。午前は親子のペアを交換してボッチャ大会、午後はスライドショーで前期の活動の様子を見た後、お絵描きゲームをしました。

ボッチャ大会では、小学校1年生の男の子の下を向いて腕を上下に激しく振る「ノールックお祈りポーズ投法」で投げられたボールがジャックボール数センチ横にピタリ、見事チームを勝利に導きました。

お絵描きゲームはお題の絵を「○と直線のみで、なるべく少ない画数で書く」という少し難しいものでした。みんなが簡素に書くので回答者は大苦戦、インスピレーションが勝敗を分けるこのゲームを制したのは小学校2年生の女の子とそのご家族でした。ボッチャ、お絵描きゲームで活躍した2人にMVP賞としてメダル授与がありました。保護者から、「父親も参加できる貴重な行事、今後も開催してほしい」との声もあがりました。今後も父親も参加できる行事を企画していきます。

(担当:小山)



ノールックお祈りポーズ投法



お絵描きゲーム



MVP メダル授与

宿泊行事 第1班:10/18～10/19 第2班:11/8～11/9 あゆみの家成人部(生活介護事業)

第1班12名、第2班11名で、宿泊行事を行いました。1日目は、敬愛の森で大海老天入りの御膳などの美味しい夕食を食べ、夜はあゆみの家成人部のフロアに布団を並べて、宿泊しました。2日目は、東大和の BIGBOX でボウリング大会を行い大いに盛り上がり、昼食は「ななかまど」の釜めし定食を食べ、そのままカラオケをしたりして楽しく過ごしました。

両班とも、天候にも恵まれ、事故もなく、無事に行事を終えることができました。

(担当:永井)



敬愛の森で夕食



あゆみの家に宿泊



BIGBOX でボウリング



「ななかまど」の昼食



昼食後のカラオケ

宿泊旅行 2019

ライフサポートつばさ(生活介護事業)



今回のライフサポートつばさの宿泊旅行は都心部へ行ってきました。普段とは違う都会の賑わいをバスから感じ目的地に向かいました。

1日目は宿泊施設である代々木オリンピックセンターに到着後、昼食を済ませ代々木公園を散歩する班、

センター内でゆっくりする班など、それぞれ思い思いの時間を過ごされました。2日目は東京タワーに行きました。展望台に上がり遠くを眺める方、のぞき窓から下をのぞき込む方、又、高い所は苦手、と下の階でゆっくりとお土産を選ぶ方等、各々に都会のひと時を楽しめました。



(担当:豊野)

福祉のつどい

ライフサポートつばさ(生活介護事業)

障害者週間(12/3～12/9)に合わせて、福祉のつどいが12月7日(土)・8日(日)に東村山市立中央公民館にて開催されました。

つばさの利用者の皆さんは、8日(日)に参加しました。

他の作業所の出店作品を購入されたり、スタンプラリーで景品をゲットされたり、ステージ見学をして楽しまれていました。

もちろん、つばさの製品販売も行い、大きな声で『いらっしゃいませ!』と販売した方もいました。他の作業所の方にも声を掛けて頂いたり、幼児部・スマイルを卒業されたお子さん達も立ち寄って下さいました。

又、今回の展示発表ではペットボトルのキャップを使ったエコアートとコラージュを出展。2つの大きな作品が目を引きました。

タイミングが合わず、『ひがっしー』や『ポンタ君』には会うことが出来ませんでしたが、通常の活動とは違う楽しみを味わうことができました。

(担当:一条)



デンマーク・スウェーデン海外研修旅行 第2部スウェーデン編

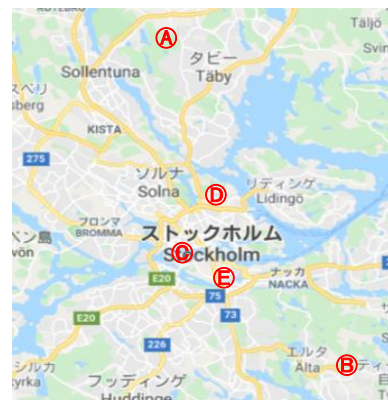
研修実施期間：令和元年6月9日(日)～17日(月)

法人いずみ職員から希望者を募り、総勢9人でデンマークとスウェーデンへ研修旅行。ニュースレター前号ではデンマーク編をお伝えしました。今回はその続編です。

スウェーデンの人口1,023万人、日本の1/12、国土は日本の約1.2倍、消費税12%～25%、所得税平均32～57%。合わせて44%～82%。ストックホルムを中心に5ヶ所の事業所やグループ住宅、個人宅を訪問。帰国前日の土曜日には王宮やノーベル博物館や森の教会墓地（世界遺産）の見学などをしました。

1. タンブリネン特別保育園 6月13日(木) (タビー市) 地図 ①

7歳までの障害児を対象とした保育園。朝の会から見学。7:30～16:30 開所、日本と違い朝食も提供。スイッチ類やスヌーズレン、(写真)など機器類が充実。教材を含む機器類はセンターからレンタル可能その際人も派遣可能。15歳まで利用可能な短期入所も併設。自宅から施設への移動はタクシー利用。タクシー内で発作の対応は、保護者が事前に運転手に薬を渡して対応。発作対応が大変な場合を除いてアシスタントは付かない。



ストックホルム近郊地図

①～⑤は見学順 google より



各自専用のベッドが用意



立位のまま操作によってダンス体験ができる機器

2. カフェ・カタリーナフセット 6月14日(金) (ストックホルム市) 地図 ③

自閉症、ダウン症、知的障害者、精神障害者25名が働くランチ専用のレストラン。職員数は12名、9時から15時まで勤務。カフェ、公園内植栽の手入れ、洗濯など（別施設）の仕事をしている。



利用者の気分転換で園芸作業も行う。



野菜とチーズのパイのランチセット
90 スウェーデンクローネ (約1,260円)



3. インディヴィドクラフト作業所 6月14日(金) (ストックホルム市) 地図 ⑤



IT ルーム



作業デスク



製品販売はブティック

インディヴィドクラフトとは「個人の力」の意。自閉症や軽度の知的、精神障害者の日中活動施設。19歳～65歳、登録は90名、日々10～20名が利用。利用の方法は週1回3時間の利用券、最大5回、15時間まで利用可能。音楽活動、手芸、IT関係、ヨガ、運動等、各部屋はまるでオフィスの様な印象。施設内に眺めのいいテラス部屋もあり適宜休憩ができる。

近所にあるブティック・ギャラリー（作品販売・絵画販売）や音楽スタジオも見学。

4. 中途障害者カロリーナさん宅 6月13日(木) (トレイソー市) 地図 ⑥

5. トューレスタ・グループ住宅 6月14日(金) (ストックホルム市) 地図 ⑦

帰国後～ 各参加者からの感想の一部

甲職員 デンマークではちょうど選挙。高投票率（84.5%）で皆が良い国を作ろうとする気概が感じられました。帰国後仕事で取入れたいことは整理整頓、道具、素材を利用者が準備、片付ける事でより参加しやすくなる。絵記号を使用して自分の気持ちを伝える工夫。個人にあわせた支援と休憩（一人になれる）できるスペース。少しでも個を大切に作る支援を心掛けたい。

乙職員 障害児放課後活動職員に「保護者からの要望で一番多いのは？」に「子どもに社会性を身に付けて、将来をより良いものにさせたい」と、保証が行き届き保護者も余裕があるのだなと感じました。どの見学先でもしっかりと理念に基づき働かれていて、日頃どれほど真剣に仕事に向き合い、努力と工夫を重ねているか？と強く問われた研修旅行でした。

丙職員 子どものころから自分で選ぶ機会がしっかり設けられている。生活の仕方や施設での活動などの選択肢に幅がある。そのための人員配置もされているように感じた。

丁職員 上半身は箱の中、声に反応するぬいぐるみがあり、声を出して返事が返ってくると体全体で喜んでいました。帰国後段ボールを利用して音楽や光を付けて利用者に楽しんで頂いています。応用できそうな装置は参考にしていきたいと思います。



インディヴィドクラフト作業所のブティック前、施設職員と研修参加者9名と現地通訳者

(ひまわり 梶沼)

第6回 いずみコンサート

(2019 年 10 月 6 日(日)14:00～15:30 あゆみの家 1 階)

冒頭、「スマイルコンサートから数えて、通算 14 回目の開催になります」という理事長の挨拶にあったように、今まで様々なジャンルのコンサートを行ってきましたが、今回は弦楽四重奏を企画。「本格的なコンサートを親しみやすく」をモットーに活動されている「カルテット N」メンバーはヴァイオリンの七澤清貴さん、裕子さんご夫妻、その息子さんでヴィオラの七澤達哉さん、そのご友人でチェロの大澤哲弥さん。それぞれの確かなキャリアとアットホームなご関係から生まれる心地いい音色はまさにモットーそのもの。ドビュッシーの弦楽四重奏曲から、中山晋平の美しい日本の曲、みんなの大好きなジブリの曲など、たっぷりと「いい音楽、いい時間」に身をゆだねることができました。

「弦楽四重奏はなぜヴァイオリンが2本なのでしょう？」とクイズが出されたあと、実際に1本のヴァイオリンの演奏、2本のヴァイオリンの演奏と聞きくらべ、音の広がり、奥行きの違い、ハーモニーのすばらしさに会場一同ため息がもれました。

また今回の会場はあゆみの家1階成人部活動室、日頃なれ親しんだ場所、そして司会の田中さんからの「楽しくなって声がでても、動かなくなってしまうても、ちっともかまいません」の一言にみんなリラックスできたのではないのでしょうか。

当日はお向かいの南台公園でもチラシを配り、飛び入りのお客様もいらっしゃいました。改めて「カルテット N」の皆様、毎年コンサートにご尽力いただいております上田先生、当日お越し下さったお客様、ありがとうございました。

さて、来年はどんなコンサートになるでしょう、今から楽しみです。

(ひだまり 星)



硝子戸の向こう

連載企画 第15回

理事長 福岡憲二

ナイチンゲールが姉に送った手紙

“僅かな人たちによる、静かなスタート。そこから地味ながら苦労を重ね、黙々と、そして徐々に向上していこうとする努力。これこそが、一つの事業が発展し、成長していくための基本条件です。”(小生拙訳 原文は以下の通り)

(The small still beginning, the simple hardship, the silent and gradual struggle upwards; these are the climate in which an enterprise really thrives and grows…)

フローレンス・ナイチンゲール(1820～1910)が、その一生に書き残した手紙類は一万数千通とされていますが、これは、そのナイチンゲールが姉のパセノープに送った手紙の一節です。

ナイチンゲールはクリミア戦争に従軍(1854年)しましたが、その時イギリス兵の負傷後死亡率を、わずか6か月の短期間で42.7%から2.2%まで低下させたことで有名です。その方法もまた、当時の常識を破るもので、当時勤務したクリミア半島のスクタリ野戦病院内の環境を、新鮮な空気、陽光、暖かさ、清潔さ、適切な静けさ、適切な食事を優先して管理することを中心に見護したことで成し遂げたといわれています。現在の高齢者・障害者介護技術にも通じる観点です。

むかし受けたナイチンゲール研究家の金井^{ひとえ}一薫先生の講義で、これは、ナイチンゲールが医療上の看護・キューア(cure)と社会福祉上の介護・ケア(care)を統合させた業績だと聴いた記憶があります。

さて、冒頭のナイチンゲールの言葉ですが、私自身にとり、非常に印象深い格別な言葉として、ここ数年、年末に買い替える新年用の手帳に、この一節を密かにメモしています。というのも、社会福祉法人いずみの、成り立ちから今日に至る沿革にもそっくり当てはまる言葉だからです。

社会福祉法人いずみは、平成17年(2005年)に設立されました。当時は、高齢者の介護保険制度がスタートして5年目、障害者福祉もいよいよ、同様の制度を、と叫ばれていた時期でした。

当時、東村山市は、市が他市の社会福祉法人に委託していた「東村山市あゆみの家」と「東村山身体障害者通所授産所」の運営業務を、できれば東村山市内に本部を置く社会福祉法人に引き継がせたい意向を持っていたところ、東村山市あゆみの会(市内の肢体不自由児者父母の会)とせきれい会(別の同様な親の会)が、協調して新法人を立ち上げるべく最小限の基本金を持ち寄って、右新法人の受け皿を作りました。社会福祉法人いずみはこうして生まれました。

これが“わずかな人たちによる、静かなスタート、そこから地味ながら苦労を重ね”(the small still beginning, the simple hardship)の時期だったように思います。事務局はほぼ素人の4人。未経験の大仕事にぶつかり、厚生省社会援護局監修の「社会福祉法人の手引

き'93 社会福祉法人の設立と運営のために」などを参考に、コツコツと福祉制度を勉強していきました。

“黙々と、そして徐々に向上していこうとする努力”(The silent and gradual struggle upwards;) 引き継ぎ相手の市外の社会福祉法人、市の担当部局、東京都などとの間の、利害が必ずしも一致しない議論、社会福祉法人設立までの、期限の迫る中でのぎりぎりの妥協、職員予定者との間の労使交渉のような厳しいやり取り等々。中でも、交渉途中でボイコットにあう等、あまり愉快でない、でも今では懐かしい思い出もあります。それでも障害の我が子や利用者、その家族のためには、何が何でも纏め上げなければならないという地域の関係者共通の思いが、助役のリーダーシップに支えられ、最後には市長も動くという、地域と行政ぐるみの協同作業で、目標期日の僅か2週間前という、ギリギリのタイミングの平成17年3月18日、東京都の厳しい審査を突破して、社会福祉法人いずみは認可されました。

その日都庁での認可式を終え、志村悦子理事長はじめ事務局一行が東村山までの帰路、時折、春の風が、早く地元凱旋報告をせよと、一行の背中を押してくれたことを覚えています。

“これこそが、一つの事業が発展し、成長していくための基本条件です。”(These are the climate in which an enterprise really thrives and grows)

法人いずみは今年、設立から満15年を迎えます。この間、障害福祉制度が大きく変わり、障害者総合支援法が施行され、障害者支援について、国や都道府県から市町村中心のサービス提供体制への移行などを含む、自己選択、自己決定、自己責任をベースとする利用者中心の制度が浸透しました。

法人いずみはこのような大変革に沿い、これら情勢の変化があると、法人組織・事業構造に機敏に取り込み、その度ごとに成長してきました。

その結果、当初事業の3か所はいま、多種の8事業所と広がり、事業内容は利用者にとって、一貫性があり、深みのある価値の高いものになりました。

職員数も当初の3倍の100人に増加、その結果、年間予算規模はほぼ3倍に拡大しました。支援する対象の東村山地域の障害児・者には、誕生の時から全生涯に亘る福祉サービスを提供できるところまで来しました。

それもこれも、よくよく振り返ってみれば、一部の努力だけではなく、役職員みんなの努力と協力、利用者、ご家族、東村山市はじめ、地域の関係者の皆様の御協力があつての賜物だと思つづく思います。

「蒼蠅驥尾(そうようきび)にして千里をいたす」(小さな蠅でも力強い馬のしっぽにつかまっておれば、遠くの目的地であっても、早く連れてってくれる意)とはこの事でしょうか。

今後についても、地域のご理解を頂きながら、引き続き、地域の様々な生活、福祉課題に積極的に対応し、当法人の取り組みを広く社会に公開し、高い感度で地域と関わっていきたいと願っています。

以上



かざみどり Vol.1

— 法人いずみに興味のある皆さん、ふらりと見学に来てみませんか —

今年度も数カ月あまり。

2020 年(令和 2 年)度の新規利用の扉はまだまだ開いています。

年度途中からの利用も可能です。お気軽に各事業所までご連絡、ご相談下さい。

○生活介護事業：あゆみの家成人部

Tel 042-394-6667 担当：村山

ライフサポートつばさ

Tel 042-394-1761 担当：市川

○児童発達支援事業：あゆみの家幼児部

Tel 042-393-7588 担当：田中

ひまわり

Tel 042-306-3072 担当：梶沼

○放課後等デイサービス：ひまわり

Tel 042-394-7231 担当：梶沼

- 編集後記 -

本誌を手にとって下さった皆様、そして発行までにご協力いただいた多くの皆様に、心から感謝申し上げます。私自身も入職前、本誌バックナンバーを読んで法人への憧れを強めたことを思い起こしながら、光栄な気持ちで編集にあたりました。

皆様、今後ともよろしくお願いします。寒い時期になりますので、どうぞご自愛ください。
(ライフサポートつばさ 山下)

発行元：社会福祉法人いずみ

東村山市富士見町 3-3-4

Tel 042-394-1868

※記事内の写真についてはご本人、ご家族の了承を頂いております。